

ヒステリー

自民党の石原幹事長は、先日（6月14日）行われた記者会見において、最近の脱原発の動きに関し「福島第一原発事故という大きな事故があったわけだから、集団ヒステリー状態になるのは分かる」と語ったとの報道がなされています。

政治家の舌禍事件というのは、これまでも枚挙にいとまがありませんが、今回の石原幹事長の発言もまた、かなり問題があるのではないのでしょうか。

私自身は原発推進論者ではありませんが、さりとて、直ちに脱原発が可能だと思っているわけでもありません。ただ、福島第一原発の事故を目の当たりにして、原発が危険なものであり、出来れば原発に頼らない社会をつくりたいという思いは、自然なものだと思います。

イタリアでは、国民投票の結果、脱原発を選択しましたが、これを「集団ヒステリー」の結果などといえば、イタリア国民から顰蹙をかうでしょう。脱原発を現実のものにするには、エネルギーの確保など超えなければならない課題があるにせよ、イタリアが国民の総意によって選択した脱原発への動きは、今後、世界に広がっていくことだろうと思います。

日本国内では、以前から、原発の危険性について議論がありましたので、最近の脱原発に向けた動きというものは、福島第一原発事故が引き金になった面はあるとしても、決して「集団ヒステリー」を起こしているからではありません。むしろ、自分たちに都合の悪い主張や動きを「集団ヒステリー」という言葉でネガティブに捉えようとしてしまうことこそ、問題だと思います。

東日本大震災やその後の政府・東電の対応によって、原発の安全神話が脆くも崩れてしまいました。政府関係者や政治家の皆さんが、国民は、根拠無く不安感を増幅させていると認識しているのであれば、それは大きな誤りですし、根拠無く安全だと思いこんでいるよりずっとまともだといえるでしょう。

福島第一原発事故を契機として、今こそ、今後も原発に頼るのか、自然エネルギーの活用をもっと進めるのか、次の世代にどういう日本を引き継ぐのか、などについて国民的議論をすべきなのです。その為にも、政府関係機関は、国民が必要とする情報を隠さず公開することが必要であり、また、自分たちの方針を誠実に、展望を持ってしっかりと説明すべきであると思っています。（塾頭 吉田 洋一）